



東北大学

ISSN 0385-7506 Vol. 31, No.1 2006



東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF  
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

- 木這子(きぼこ)とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子(こけしぼうこ) -

## 目 次

|                                   |                                     |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 図書館情報処理システムの更新について..... 1         | 江戸の酒・菓子.....11                      |
| 貴重図書目録と漢書篇の刊行について..... 5          | 最近の話題から(その6)「エコレジャーの誘惑」.....14      |
| 各学部,研究科新入生ガイダンスへの図書館職員参加報告..... 6 | キャンパス間資料搬送サービスの試行をはじめました K.....16   |
| 図書館新入生オリエンテーション開催..... 6          | 第37回国立大学図書館協会東北地区協会総会の開催について.....17 |
| 本館蔵書検索講習会開催..... 7                | 附属図書館商議会商議員名簿.....18                |
| 研究室向け個別図書館講習会の開催..... 7           | 会 議.....19                          |
| 日・EU フレンドシップウィーク開催..... 8         | 人事異動.....21                         |
| 平成18年度目録システム地域講習会(図書コース)開催.....10 | 編集後記.....22                         |
| 連載「江戸の食文化」を巡る話題から(3):             |                                     |

## 図書館情報処理システムの更新について

情報部情報基盤課学術情報支援係長 照 内 弘 通

昨年末(2005年12月)に図書館情報処理システム(T-LINES<sup>TM</sup>)を更新してから6ヶ月が経過した。この機会に、今回で4度目となったシステム更新についてまとめる。

### 1. 経 緯

図書館情報処理システムは、業務処理機能としての「図書館業務支援システム」、利用者サービス機能としての「情報サービスシステ

ム」から成り、サーバ、パソコン等のハードウェアおよび各種アプリケーション・ソフトウェアで構成される総合的なシステムである。

図書館では、大学の学術情報基盤を担う組織として、利用者サービスの向上と拡充、それを支える業務処理の効率化を目指して、1987年に同システムを導入して以来、4～5年ごとに更新を重ねてきた。今回は特に、電子ジャーナル関連処理、多言語対応、資産管理、ネットワー

ク環境の安定化などに重点を置きつつ、全般的に機能の高度化を図った。

以下、主な改善点を具体的に説明する。

## ２．ハードウェア

### (１) サーバ

サーバ群は、「図書館業務支援サーバ」「図書館業務アプリケーションサーバ」「情報サーバ」「プロキシサーバ」の４種類７台で構成される。新システムではラック型を採用し、大幅なダウンサイジングによる省スペース化を実現している。

「図書館業務支援サーバ」は、図書、雑誌、目録、貸出、文献複写等の各種業務データを管理・運用するもので、同システムのメインサーバにあたる。

「図書館業務アプリケーションサーバ」は、旧システムでは16台のワークステーションが本館・分館・図書室に分散して設置してあったが、新システムでは３台に集約し、本館に設置することで、効率的な管理・運用が行えるようにした。

「情報サーバ」は、蔵書検索システムやオンラインサービス(文献複写依頼、図書購入依頼、貸出予約、各種状況照会など)および図書館のホームページ、各種データベースを運用するサーバである。従来は、検索語の切り出し機能など、一部の業務処理も同サーバが兼ねており、また、アクセス数の増加やその他の複合的な要因によって、蔵書検索のレスポンス遅延や障害によるサービスの一時停止が問題となっていた。新システムでは、サーバの性能向上は言うまでもなく、同サーバを２台で構成することにより機能を分散させ、高速で安定したサービスの実現を目指した。

「プロキシサーバ」は、利用者が図書館内の端末を利用して、学外サイトにアクセスする際の認証用に設置しているものである。従来のサーバは、平成13年の文部科学省補正予算によって導入した「統合型学術情報提供システム」

の機器であったが、同システムの更新が期待できないため新たに導入し、図書館情報処理システムの利用者データとの連携が、より効率的に行えるようにした。また、平成17年４月から本学で運用が開始された「全学電子認証システム(学生用)」とのID・パスワード同期機能を継承させ、学生の便宜を図っている。

### (２) ネットワーク機器

附属図書館サブネットワークは、プロキシサーバ同様、「統合型学術情報提供システム」で導入したネットワーク機器によって、本館と4分館間で仮想ネットワーク(VLAN)を構築していた。この時点で分館のネットワークを一元管理できるようになったが、購入機器で構成し、十分な保守体制が組まれなかったため、運用面で大きな不安があった。新システムでは、同様のVLANを構成できるネットワーク機器を新たに導入し、保守契約に含めることで、サブネットワーク運用の安定性を確保した。

### (３) 端末等

パソコンは、業務用130台、研修用８台、利用者蔵書検索専用19台の計157台を本館・分館・図書室に設置した。本館・分館においては、実務を担当する図書館専門員以下、初めて全員に１台ずつのパソコンを配した。従来のOSがWindows 98であったため、近年はサポートを打ち切るソフトウェアもあり、セキュリティ面で不安があった。また、メモリ不足から動作が非常に鈍くなり、業務処理に支障を来していた。新システムでは、Windows XPで、メモリも４倍となり、効率的な業務処理が可能となった。また、液晶ディスプレイを採用し、省スペース・省エネルギー化を実現した。

その他の周辺機器としては、プリンタ35台、ハンディスキャナ71台、磁気カードリーダー11台、カード発行機１台などを備えている。特にバーコードスキャナは大幅に増設し、バーコードを印刷した帳票等による業務の効率化を図った。

また、過去に単独で導入し、老朽化していた図書館利用証発行システムを、今回初めて同システムに含め、安価に更新した。

### 3. ソフトウェア

NEC の図書館システム LICSU Web を本学向けに一部カスタマイズして使用している。

#### (1) 図書館業務支援アプリケーション

業務の種類別に「図書受入」「目録」「雑誌」「閲覧」「ILL」等のサブシステムで構成され、Web を介した利用者サービスである「情報サービスシステム」と密接に連携した業務処理が行えるようになっている。

主な強化点としては、財務会計連携機能、資産管理機能の導入、目録の多言語対応、雑誌の電子ジャーナル契約対応、学内キャンパス間の現物貸借機能、蔵書点検機能の導入、グローバル ILL サービスへの対応などが挙げられる。

#### (2) 情報サービス支援アプリケーション<sup>2)</sup>

##### MyLibrary

以下に説明する各種オンラインサービスの学内者専用ポータルサイトで、利用者の好みにより、表示するコンテンツをある程度編集できるパーソナライズ機能を備えている。国内外の図書館においても、同様に MyLibrary の名称でサービスされていることが多い。学生のログイン ID・パスワードは全学電子認証システムと共通化した。

##### 蔵書検索

「一般用」「学内者用」「業務用」の3種類を用意した。「一般用」は図書館のトップページ等からアクセスでき、一般に公開している。「学内者用」は MyLibrary 内に設置し、検索結果から、分館など他館の資料の取り寄せや文献複写依頼ができるなど、付加機能が用意されている。

また、中国語やハングルなどが原語で表示できる多言語表示に対応した。さらに、本学

電子ジャーナル集との横断検索および結果の複合表示を可能にし、紙媒体と電子情報を結びつける工夫をした。

##### オンラインサービス

従来からの基本サービスに、利用者の便宜を考慮した各種機能を追加した。なお、My Library の中に配置することにより、サービスごとに認証を求めることなく、1度のログインで各サービスが利用できるように改善した。

##### ・貸出

他キャンパスにある図書館(室)の資料を取り寄せる機能や、貸出更新機能を用意した。

##### ・文献複写

申込者の同意により、複写依頼した文献を学内の研究室等から Web 上で閲覧できる e-DDS サービス機能を追加した。

##### ・図書購入依頼

「教員による学生用図書選定」機能を複数館で運用できるようにした。また、書店システムの検索結果から、書名等の書誌情報を本学の購入依頼フォームに設定する書店連携機能を用意し、申込者の入力の手間を省くとともに、事務処理の軽減を図った。

##### オンライン・レファレンス

Web の入力フォームから参考質問を送信して、電子メールで回答を受け取ることができるサービス。

##### 横断検索

学内外の目録データベースや文献データベースを横断して検索できる機能。「統合型学術情報提供システム」の「統合検索」の代替機能としての意味もある。

##### モバイル対応

携帯版蔵書検索、開館カレンダー、オンラインサービス利用状況照会、貸出更新などの機能を新規に導入した。

#### (3) その他

このほか、情報サーバには、データベースの開発・公開が可能な環境を設定し、Web サービス機能に将来的な拡張性を持たせている。これにより、「統合型学術情報提供システム」で既に公開している各種データベースを高速で安定的に運用するために、順次移行していくことを計画している。

#### 4．今後の課題

情報処理技術や電子的図書館サービスが発展していく中で、更新の周期は5年では長いと思われる。システムの性能や情報セキュリティ面で、利用者のニーズや世の中の動向に対する適応が遅れてしまうので、かつてのように4年(以内)の周期に修正すべきであろう。

次に、Webを介したサービスが増加し、図書館システムのメーカーが様々なサービス機能をオプションで提案しても、予算的に非常に厳しく導入できない現実がある。今回は「リポジトリ機能」のオプションや、各種機能のカスタマイズを多数断念した経緯がある。図書館を大学の重要な情報基盤として位置づけるならば<sup>3)</sup>、教育・研究を支えるのに十分なシステムが導入可能な予算措置が検討されなければならない。

また、本学では、各業務サブシステム単位に4～5人で構成するワーキンググループを設置して、仕様書案の検討からメーカーとの打ち合わせ、検証、業務担当者の指導に至るまで、その役割を果たしている。しかし、特にリリース前後の半年間は、通常業務を行いながら対応するのが困難である。今後は、システム更新というイベントとは別に、継続的に業務の整理・見直し、問題点の抽出を行い、より計画的・効率的にシステム更新を行う体制づくりが必要であろう。

#### 5．あとがき

更新は5年振りとなるが、前回の更新がいわゆるマイナーチェンジであったのに対し、今回はWebユーザインターフェースになり、操作方法や画面構成が全面的に変更となったため、当初は若干の戸惑いも見られた。旧システムの業務画面を9年間使い慣れてきたことになるので当然のことであるが、各業務サブシステムのワーキンググループの奮闘努力の結果、業務は平常通りに流れ、導入に伴う初期のシステム調整も落ち着きつつある。

また、サービス面ではMyLibraryなど利用者向けの新サービスが結構好評であると聞いている。今後、自己点検・評価やアンケートなどによって、利用者の反応・ニーズを再確認し、システムのさらなる発展を目指していきたい。

最後に、仕様策定、技術審査にご協力下さった委員の先生方、職員の方々、並びに、主査を初めとするワーキンググループのメンバーの皆さん、その活動を陰でサポートして下さいました図書館職員の皆さんに、この場を借りて心から感謝申し上げます。

#### 注

- 1) T-LINES: Tohoku University Library Information System.
- 2) 本稿執筆時点で、機能の微調整や運用に関する検討・調整のため、公開していない機能がある。
- 3) 「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」(平成18年3月23日 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm)

(てるうち・ひろみち)

## 『平成十七年度東北大学附属図書館本館所蔵

## 貴重図書目録和漢書篇』の刊行について

学術資源研究公開センター 大 原 理 恵

平成18年3月本館が所蔵する和漢書貴重図書の目録を刊行し、全学各部局および全国の大学図書館、東北地方の公共図書館等に配布した。先に刊行配布した『東北大学附属図書館本館所蔵新訂貴重図書目録洋書篇』（木道子 第29巻第2号 平成16年9月参照）の姉妹編というべきものである。

この目録は昭和36年に刊行した『東北大学附属図書館別置本目録増訂稿』の増補改訂版である。貴重図書はかつては別置本と称していた。『別置本目録』に収録されていた和漢書は724点である。この中には漱石文庫の一部が含まれていたが、現在漱石文庫は全点貴重図書に指定されており単独の目録を刊行しているので、今回刊行の目録には収録していない。また貴重性以外の理由で別置していた秘本類も除いた。その他の貴重性に疑問があるとされている資料については、除去を検討したがそのまま留めている。新たに貴重図書に指定した資料を加えて収録総数は781点となった。新規に貴重図書に選定された資料については平成17年12月に貴重図書等選定委員会を開催、審議の上指定を決定した。

目録の記述の方式は昭和36年のそれをほぼ踏襲している。叢書には細目を加えた。配列は年代・五十音順によっていたものを、内容に重点を置くように改めた。従来は狩野文庫より指定したものとそれ以外を分けていたが、統合した。ただし、狩野文庫の資料については、旧請求記号を貴重図書の函架記号とあわせて示している。『狩野文庫目録』等では旧請求記号が用いられているためである。（例えば、国宝『類聚國史』の貴重図書函架記号は阿8-1、旧請求記号は3-4733-1である。）

その他、詳細については、本誌に後日報告を掲載する予定である。

本目録の編纂に当たったのは「東北大学附属図書館別置本目録」増改訂プロジェクトである。附属図書館調査研究室のプロジェクトとして平成8年4月設置、調査研究室廃止にともない平成13年3月終了、東北大学附属図書館貴重図書等目録編集プロジェクトが継承した。プロジェクトは「和漢書部門」「洋書部門」「データベース部門」から成り、和漢書目録を担当したのは半澤智絵・内ヶ崎洋一・関戸麻衣・阪脇孝子・木戸浦豊和（以上附属図書館職員・転任者を含む）・大原理恵（調査研究室助手・のち附属図書館研究協力員）である。また調査研究室委嘱研究員として原田貞義教授（東北大学大学院国際文化研究科・当時）大藤修教授（東北大学文学研究科）石田義光教授（東北学院大学）の指導を賜った。（「東北大学附属図書館別置本目録」増改訂プロジェクトについて「東北大学附属図書館研究年報29 平成8年12月参照」）

和漢書篇の刊行を以て貴重図書等目録編集プロジェクトは終了した。データベースは、情報シナジーセンターの協力を得て構築中であったが、課題として残されている。これについては、改めて検討する予定である。

貴重図書に指定すべき資料は、まだ残されている。今後新規に受入れることもあるであろう。

貴重図書の選定・目録刊行への御助力に感謝するとともに、今後も御意見をお寄せ下さるようお願いしたい。

---

『貴重図書目録和漢書篇』は現在のところ多少残部がありますので御希望の方は附属図書館総務課庶務係まで御連絡下さい。

貴重図書に関するお問い合わせは情報サービス課閲覧第二係にお願いします。

（おおはら・りえ）

## 各学部,研究科新入生ガイダンスへの図書館職員参加報告

### 情報サービス課参考調査係

川内地区学部・研究科新入生オリエンテーションにおける図書館ガイダンスを開催した。

川内地区の学部・研究科（文・教・法・経・国際・教情）が行う新入生オリエンテーションに当館職員が参加して、図書館概要の説明と図書館が開催する新入生オリエンテーションへの参加を呼びかける内容で、8会場、約900名に対して実施された。

説明者と補助者2名の情報サービス課の職員をオリエンテーション会場に派遣し、約10分間程度図書館と新入生オリエンテーションの紹介を行った。各会場では、図書館利用案内のほか、『情報検索の基礎知識基本編2006』を全新生に配布し、広報を行った。

特に教育学部では、毎年オリエンテーションの時間を1時間取り、図書館内会場で行っている。図書館利用法の紹介のみならず、大学での学術研究と図書館、教育学部生に読んで欲しい資料というテーマで担当者が説明を行い、加えて貴重書展示室見学も行った。

各学部オリエンテーションのスケジュール上、4月6日と7日に日程が集中したため、サービス課の職員を同時刻に複数部局へ派遣しつつ、教育学部ガイダンスを行うという、なかなか厳しい展開ではあったが、皆さんの協力で何とか無事に終了する事ができた。この紙面を借りてお礼申し上げる。

## 図書館新入生オリエンテーション開催

### 情報サービス課参考調査係

平成18年度の新入生のための図書館オリエンテーションは、4月10日～4月13日の期間開催された。当オリエンテーションは、4月に新しく入学した学部生・大学院生が、図書館を利用するための最低限の知識をガイダンスすることが目的で、4日間で約350名の参加があった。

内容は図書館紹介ビデオの上映と図書館ツアーである。従来はビデオ上映と図書館ツアーで1時間ほど時間がかかっていたものを、ビデオは好きな時間帯（期間中1日9回上映）に見てもらい、図書館ツアー（1日3回）だけの参

加では30分程度で終了できるようにした。

図書館ツアーでは、通常新生は入庫できない書庫内見学など本館1号館中心の見学を行った。見学会引率者は、情報サービス課を中心に情報管理課、総務課からも協力いただいた。同じ見学コースでありながら、引率者各自の経験が生かされたグループごとにユニークなツアーとなった。

終わりに、この紙面を借りてご協力頂いた館員各位に、お礼申し上げる。

## 本館蔵書検索講習会開催

### 情報サービス課参考調査係

平成18年度蔵書検索講習会（初級編）は、4月19日、4月28日、5月10日に、当館システム研修室で開催された。当講習会は、当図書館の蔵書を扱う際に最も基本にして重要な Online Catalog システムについて最低限の知識を講習することが目的で、3日間で約50名の参加があった。

前半に Online Catalog の説明と実習を交互に行い、後半に練習問題を通して、前半で得た知識の定着を狙った。講師と補助は、参考調査係と図書館情報教育支援ワーキング・グループで担当し、無事3日間、計6講演を成功の内に終了させた。

昨年度好評であった、留学生向けの英語による蔵書検索講習会も行った。内容は日本語での講習と同様、同会場で行い、英訳したテキストも配布した。講師と補助者は英語が堪能な職員4名に依頼した。留学生向けのみでは11名の参加者があった。

参加者のアンケートでは蔵書だけでなく論文の検索も行っていきたい、との意見が参加者の約半数を占めた大学院生を中心に多かった。また留学生のアンケートでは図書館利用法の説明要望が多かった。これは今年度留学生向けのガイダンスが資料配付のみだったことも影響してい

ると考えられる。例年5月に蔵書検索講習会・6月/10月に論文検索講習会を開催しているが、対象者別の講習会企画の可能性を考えさせられるアンケート結果であった。

広報は、川内地区を中心に掲示ポスター、図書館ホームページを通じて行い、学部教務係から全教員へ授業内での周知をお願いするメール配信の依頼を行った。アンケートの参加動機では図書館ホームページを見た、という自主性の高いグループと、先生・先輩に勧められた、というグループに二分されていた。留学生向けでは、国際交流センターでのポスター掲示が有効であったことがアンケートから分かった。終わりに、この紙面を借りてご協力頂いた館員各位に、お礼申し上げます。



## 研究室向け個別図書館講習会の開催

### 情報サービス課参考調査係

毎年4～6月にかけて研究室向けの個別講習会を開催している。今年度は3学部5研究室に対して、合計7日間の講習を行った。

- ・教育学研究科人間形成論・教育史研究室  
4 / 19, 4 / 26 出席者15名
- ・全学教育基礎ゼミ  
4 / 24 出席者 20名
- ・文学研究科行動科学専攻研究室  
5 / 12, 5 / 19 出席者14名
- ・文学部人間科学専攻宗教学研究室  
5 / 29 出席者26名
- ・経済学研究科経営史演習履修生  
5 / 30 出席者13名

当講習会は、研究室や授業の担当教員からの依頼で、当係が講習会を運営するもので、講習内容については依頼者側と相談の上、決定して行っている。通常の図書館主催講習会とは異なり、演習問題等も、その研究室の研究テーマに合う内容をその都度設定する。蔵書検索や、文献検索データベースの説明と演習というオーソドックスなタイプから、館内ツアー・貴重書展示室の見学を含めるものまであった。

図書館からの情報提供及び体験の場の提供として、図書館主催の蔵書検索・情報探索講習会、全学授業「大学生のための情報検索術」がある。しかし前者の図書館主催講習会はあくまでも参加者の自主性に依拠し、内容もごく一般的なもの・入門的なものにならざるを得ない。後者にあっては実習端末の制限により140名であり、学部を限定しない全1年生をターゲットとしている、という制限がある。個別講習会は、これ

らの講習会・授業を受講しなかった利用者への対策、さらに専門性の高い分野へ進んだ既受講者へのフォローアップとなる。

個別講習会はまた、受講者にとって、通常の講習会よりも、自分の研究への応用がより具体的に見えるものと期待される。講師側にとっても、先方のニーズを知る経験から、その分野での新たな発見があったり、探索ツールへの探究心が一層向上したりするのである。

講師等については学術情報支援ワーキンググループ（支援WG）からの派遣を要請している。支援WGは全学授業「大学生のための情報検索術」への参加のほか、『情報探索の基礎知識』シリーズの執筆・編集にあたっている。全館のメンバーで構成される支援WGで講師を分担することで、本館で行う講習会の充実だけでなく、講師自身の経験の蓄積、全館レベルでの講習会の質の向上が期待される。

研究室・授業単位の講習会ご希望があれば、下記にご連絡ください。

desk@library.tohoku.ac.jp 参考調査係



## 日・EU フレンドシップウィーク開催

### 情報サービス課参考調査係

2006年「日・EU フレンドシップウィーク」イベント「EU 原加盟国オランダと日本」展は、5月22日から6月2日までの12日間、附属図書館本館の入館ゲート付近フロアで開催された。東北大学附属図書館は1983年からEU資料センター（EDC）に指定されており、毎年5月の「日・EU フレンドシップウィーク」に参加した展示は今回で5回目となる。

1951年に発足した欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）の構成国はドイツ、フランス、イタリア、ルクセンブルク、ベルギー、オランダの6ヶ国であった。石炭・鉄鋼だけであった共同化は経済全般、政治にまで及び、2001年にEUが発足した。現在のEU加盟国は25ヶ国、加盟候補国は3ヶ国となっている。そのEU加盟国のうちでも日本と400年以上の交流の歴史があるオランダについて紹介すべく「EU 原加盟国オランダと日本」展とした。

展示ではオランダと日本の歴史を江戸時代から太平洋戦争、現代までを通覧した。オランダ語辞書・いわゆる蘭書などの古文書を本企画としては初めて展示したが、おおむね好評であった。また現在のオランダについて、人口などの基本的な情報、オランダのユーロ、オランダ王室と皇室の制度比較などを展示した。

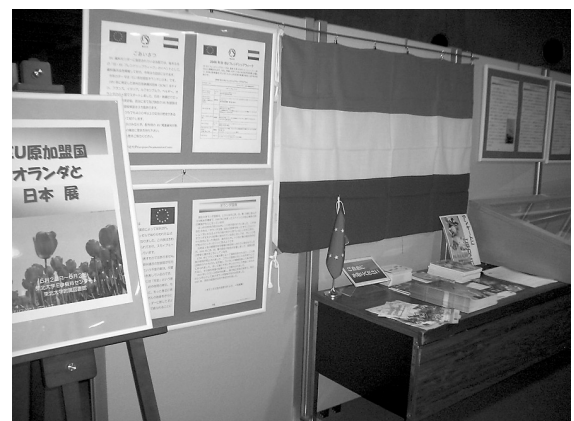
EUの広報誌やパンフレット、絵はがき等を配布したほか、アンケート用紙に記入をして下さった見学者の方には、EUオリジナルの携帯ストラップ、ピンバッジいずれかを差し上げた。

アンケートでは今回の企画で初めて当館が

EDCに指定されている事を知ったという大多数の意見のほか、昨年の展示で知った、という意見も多く寄せられており、やはりこの企画が東北大学EDC広報の一環となっていることを再認識した。

EUは加盟国が、主権の一部を委譲した国々で構成させる他に例を見ない組織である。例えば、フランスの輸出入政策、ドイツの環境関係法を知ろうとすると、EUの制度を知らないでは答えを得ることはもはや不可能となっている。EDCにはブリュッセルのEU本部から様々な資料が送付されてきている。是非ご活用いただきたい。また、欧州連合のウェブサイト（ヨーロッパサーバ）<http://europa.eu/>でも法令・判例等種々の情報検索が可能となっている。利用法等が分からない場合は当係までお尋ね下さい。

終わりに紙面を借りて、ご協力下さった駐日欧州委員会代表部、情報サービス課、雑誌情報系の皆様にお礼申し上げます。



## 平成18年度目録システム地域講習会(図書コース)開催

6月28日から30日までの3日間附属図書館において、国立情報学研究所との共催による「目録システム地域講習会(図書コース)」が開催されました。

この講習会の目的は、目録業務担当の図書館職員が、国立情報学研究所の総合目録データベースの登録・運用に関する知識・技術を習得することです。

今年は、東北地区の大学図書館、高等専門学校図書館及び公立図書館から15名の受講者がありました。

今回の講習会では、冒頭の「目録システム概論」及び「目録情報の基準」の講義を国立情報学研究所の職員が担当しましたが、その後の「目

録検索」、「登録総論」等のカリキュラムについては、国立情報学研究所データベース実務研修を終了した本学及び宮城教育大学の図書館職員等が、講師及び講師補助者として講義や実習に携わりました。

受講者の方々は、実務経験や習熟度が様々であり、また普段使い慣れているパソコンとの機種の違いもあって、初めのうちは講義内容やパソコン操作に戸惑いも見受けられましたが、講師等の熱心な指導や適切なアドバイスによって徐々に緊張もほぐれ、最終的には十分な理解が得られたようで、受講後のアンケートには所期の目的を達成できたことの謝意が多数寄せられました。



## 連載「江戸の食文化」を巡る話題から( 3 ): 江戸の酒・菓子

工学分館 小 清 水 裕 子

平成17年度企画展「江戸の食文化」の連載3回目の今回は、第3部・江戸の酒・菓子についてご紹介いたします。

### 1. 復元御菓子

平成17年度の企画展は、東北大学創立百周年記念事業の一つであり、また国立大学から法人化2年目の展示会でもあるということで、市民の方々に親しまれる展示会にすることを目標に取り組みました。具体的には、展示会場を市街地より少し離れた川内キャンパスから市の中心部に場所を移したり、また、初めて他機関とも共催したりしたことが挙げられます。これらはすべて、少しでも多くの方々に来場していただきたいという思いから企画した結果です。

その中でも、大きな目玉は「白松がモナカ本舗さんとの記念御菓子の製作」でした。刊行された菓子専門書としては最古の『古今名物御前菓子秘伝抄』をもとに四種類の御菓子を復元しました。開会まで中身は極秘で、個数限定販売でした。どのような御菓子を復元したかは多くの方はご存じないと思いますので、ここで紹介します<sup>1)</sup>。



復元した御菓子

物相強飯（もっそうこわめし）

物相という米の量を量る器具で、おこわを型抜きしたもののが本来の姿。江戸時代はおこわも菓子屋で売られていました。復元御菓子では、食べやすいように栗おこわを饅頭風にアレンジしました。

けさいな餅

南瓜の餡を包んだ一種のパンプキン・パイ。餡にはもちろん、皮にも南瓜のゆで汁を使い、南瓜の自然な甘さを生かした御菓子です。

焼饅頭（やきまんじゅう）

饅頭は甘酒や酒粕を用いますが、焼饅頭は重曹を入れるのが特徴。蒸して出来た饅頭を金属板で挟んで裏表両面から焼き、焦げ目をつけています。

芋巻（いもまき）

上新粉で作った生地で、山芋を蒸して裏ごしした白い餡を巻いたもの。『古今名物御前菓子秘伝抄』以外には見当たらない御菓子で、現在では幻の御菓子といってよいでしょう。

どの御菓子も、砂糖が広く普及する前の素材の甘みを生かしたものです。家庭での手作りのような風合いに、どこかしら懐かしさを感じられた方も多かったのではないのでしょうか。

### 2. 和菓子文化の成熟と菓子製法書

そもそも和菓子は、果物や木の実 / 餅や団子 / 唐菓子 / 点心 / 南蛮菓子というような段階を経て17世紀後半の京都で一応の大成をみます。の和菓子の原初的な形態に、中国から、ヨーロッパからがもたらされま

す。 は現在の羊羹・饅頭のもととなり、 は現在洋菓子と呼ばれるものとなりました。このような17世紀後半の和菓子大成と、同時期に隆盛であった出版文化が、多くの菓子製法書の成立を促しました<sup>2)</sup>。

復元御菓子のもととなった『古今名物御前菓子秘伝抄』のように全体を網羅した製法書はこの後も、『古今名物御前菓子図式』(長谷川良隅, 1761)・『古今名菓秘録』(清談樓主人編, 1862)と続きます。



清談樓主人編『古今名菓秘録』文久2年(1862)  
菓子型で打ち物(落雁)を作っているところ

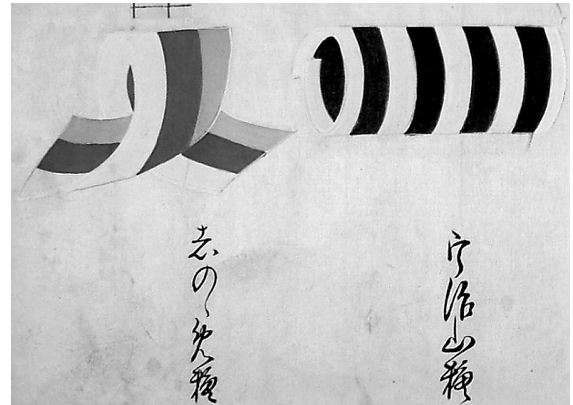
また、ある種類に特化した製法書も出現しました。餅菓子であれば『餅菓子即席増補手製集』(十返舎一九, 1805), 唐菓子であれば『唐菓子譜』(1814)などがあります。

1689年の『江戸惣鹿子』によると、江戸市中の菓子屋は49軒, 1787年の『七十五日』になると、記載の食物店391軒の中218軒が菓子屋とされています<sup>3)</sup>。このように江戸市中にたくさんあった菓子屋ですが、ここにも、やはり特有の菓子製法書がありました。その製法書は、これまでのものとは少し違った趣になります。詳しくみていきましょう。

### 3. 菓子屋の菓子製法書

今回の展示会でひときわ目を引いたのが、次

の『菓子譜』です。綺麗に彩色してあるのですが、紙面の都合上、フルカラーでお見せ出来ないのが残念です。



『菓子譜』

この絵図帳は、餅菓子・蒸菓子・練菓子・干菓子の雛形絵図帳です。見本帳とも呼ばれ、菓子屋が顧客から注文を受ける時に使う一種の商品カタログでした。料理本にはあまり見られない色彩豊かな本だったので、多くの方に手にとって見ていただきたーいと思い、展示会ではレプリカを作成したところ、大変好評でした。やはり、実際に触る・食べるといった五感を使った体験ができる展示の工夫をしていくことは、特に今回のような私たちに身近な衣食住にちなんだテーマにおいては重要なのではないかと感じました。

また、菓子製法書の中でもこの本は、和菓子の意匠の特質を見ることができるとい特徴があります。和菓子の名前や意匠が、『古今和歌集』などの古典文学に想を得て付けられているのです。上の写真の左の金平糖は、「しのゝめ糖」と名付けられています。例えば、『古今和歌集』には、第156番歌に

夏の夜の ふすかとすれは 郭公

なくひとこゑに あくるしののめ

という紀貫之の詠んだ歌があります。「東雲(しののめ)」とは夜明・暁という意味で、「東雲色」は朝焼けの光に染まった雲の色から名付けられました<sup>4)</sup>。こうしたことを踏まえて上の絵を見る

と、東雲色であるピンク色とは違いますが、夜明けのグラデーションがかった空を表していることが分かります。

このように、菓子屋の菓子製法書からは、当時どのようなお菓子があったかだけでなく、お菓子と文化のつながり、また江戸の人たちの教養の豊かさ・趣深さまで知ることができるのです。

#### 4. 江戸時代の酒の楽しみ方

お酒についても、当時の人たちの食を楽しむ様子は資料の中に垣間見ることができます。菓子と同様に、酒の製法書も『日本山海名産図会』（1799）、『手造酒法』（十返舎一九）など多く出版されました。しかし菓子の場合と異なるのは、その楽しみ方を書いた本が多く出版されたことでしょう。

例えば、下の写真は、文化12年（1815）に千住で行われた酒合戦の様子です。



高田興清『擁書漫筆』1816

この酒飲み大会の様子を記した『続水鳥記』によれば、使用した大盃の種類は、巖島盃（五合）、鎌倉盃（七合）、緑毛亀盃（二升五合）、丹頂鶴盃（三升）などがありました。上の写真での優勝者は、緑毛亀盃を三盃あけたといえます。陽気な宴会や飲み比べなどは、いつの時代も変わらなかったようですね。

また酒→宴会→芸という発想も、江戸時代に既にあったようです。『座敷芸一杯機嫌』（十返舎一九、1821）には、身体と小道具を様々に組み合わせ、種々の形を影絵で表す芸が紹介され

ています。これもぜひ実際資料を手にとってみたいお薦め本です。現代の私たちでも理解できる可笑しさがあります。ここでも江戸の人たちの想像力・発想の豊かさを窺い知ることができます。

#### 5. おわりに

展示後のアンケートでは「復元したものをもっと展示してほしい・食べてみたい」という声が寄せられました。一部分ではありますが、実際体験できるようにした企画は、「難しい、とっつきにくい」と思われがちな古典資料に興味を持ってもらうきっかけとして非常に効果があったと思います。場所を変えたことによっても、一般の方々のご意見をたくさんいただくことができました。よりわかりやすく、より楽しい展示にしていこう今年度の展示に生かしていきたいと思います。

菓子・酒は食生活の中で考えると、あくまでも嗜好品であり、現代の生活においても別段食べたり飲んだりしなくても困らないものです。しかし、嗜好品であるからこそ、時代を超えて私たちの生活に潤いを与えてくれる貴重な食品です。このように、身近なものに対するルーツを調べていくと、日本の文化を見つめ直したり、昔の人たちから多くの知恵を学んだりすることができそうです。この展示会が、来場していただいた方々の興味を広げるきっかけになればと思います。

#### 【参考文献】

- 1) 鈴木晋一監修、『御前菓子をつくらう：江戸の名著古今名物御前菓子秘伝抄より』、ニュートンプレス、2003
- 2) 青木直己著、『図説和菓子の今昔』、淡交社、2000
- 3) 中村尚美「江戸の菓子屋 - 地理的分布を中心として - 」(『和菓子』8号、2001)
- 4) 中江克己著、『色の名前で読み解く日本史』、青春出版社、2003

(こしみず・ゆうこ)

## 最近の話題から（その6）「エコレジャーの誘惑」

情報サービス課閲覧第二係長 菅 原 透

来年の東北大創立100周年に先立ち、大学では続々と各種イベントが開催されています。附属図書館で毎年主催している「企画展」も、百周年記念事業の一環として例年よりもパワーアップした企画となるよう、ただいま鋭意準備中です。（注1）

今年の企画展のテーマは、「江戸の遊び ～ けっこう楽しいエコレジャー～」です。各種メディアでも関心が高まりつつあるエコロジー（環境）を切り口に、江戸の遊びを楽しく分かり易く展示する予定です。そして、環境と暮らしとの関わりを見つめ直せるような、地域連携・社会貢献の図ることができる展示にしようと検討しています。

本稿では、展示資料の選定・調査を進めている過程から、「季節の楽しみ」に関する7月・8月の話題をご紹介します。

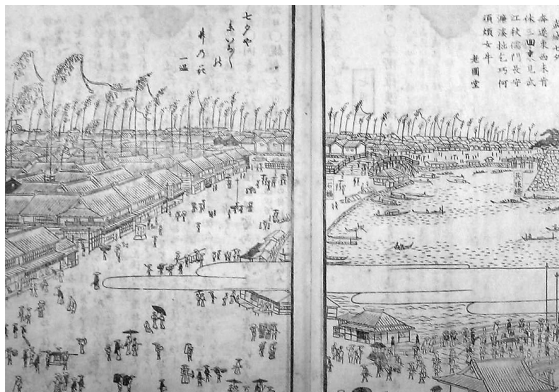


図1：『東都歳事記』武城七夕

七夕は、牽牛と織女の二つの星が、年に一度だけ逢えるというロマンティックな伝説で親しまれてきたことから、おめでたいお祭りという感覚を持つ人も多いでしょう。

もともとは中国の習俗で、二つの星に供え物をし、技芸の上達を祈ったものが発端と言われています。それが江戸時代の庶民の間では、笹

竹の葉に短冊を吊し、男の子は文字の上達を、女の子は裁縫の上達を願うという形態が整ってきたようです。図1でも青葉のついた長い竹を屋根の上に立てた様子が、なかなか壮観です。

現在全国的に有名なお祭り「仙台七夕」も、藩政時代から「タナバタさん」と呼ばれて親しまれていたようです。嘉永2年（1848年）刊の十返舎一九著『奥羽一覽道中膝栗毛』にも、旧暦7月の仙台年中行事として、次の様に記されています。『<sup>たなばた</sup>棚機祭。六日夜より<sup>ささ</sup>篠竹に式紙・短冊くさぐさの形を切て、歌をかき、またはてうちんをともし、七日の朝、評定川または支倉川、<sup>あな</sup>瀬川へながす。』このような史料より、江戸時代にはすでに地域に根付いた行事だったことが伺われます。



図2：『絵本千代松』七夕

行すえはなを久かたの天の川千代のはじめの秋に逢ひつつ

ところで、資料調査を進めていると思わぬ出会いがあります。図2は藤澤氏（参考文献3）に『春信独特の叙情性が隅々まで行き渡った名品』と言わせる、鈴木春信の絵本です。

春信は、江戸中期の浮世絵師として、多色刷りの誕生にも関わった大スターです。その独特の夢幻的な気品と、あどけない可憐さを併せ持った美人画は、一枚物の錦絵によってその魅力

が十全に知れ渡っています。しかしこの墨一色で摺られた絵本でも、日々の暮らしが生き生きと描かれ、春信ワールドとでもいうべき描画を堪能することができます。

江戸学の宝庫「狩野文庫」は、絵本についても充実しているので、七夕に関する資料選定を行うにしても目移りするほどです。



図3：『絵本千代松』月

世のうさに一かたならずうかれゆく心さだめよ秋の夜の月

同一資料からお月見もご紹介しましょう。江戸時代は庶民の間で盛んに月見が行われていたようです。中秋の名月と言われる八月十五日だけではなく、「十三夜」<sup>いざよい</sup>、「十六夜」<sup>たちまちづき</sup>、「立待月」<sup>いまちづき</sup>（十七夜）<sup>ふしまちづき</sup>、「居待月」<sup>いまちづき</sup>（十八夜）<sup>ふしまちづき</sup>、「臥待月」<sup>ふしまちづき</sup>（十九夜）<sup>ふけまちづき</sup>、「更待月」<sup>ふけまちづき</sup>（二十夜以降）とあって、月見はひとつのレジャーでした。

そして、最も賑わったのは図4にもある「二十六夜待ち」です。屋台や月見船に興じながら、午前2時頃に出てくる月を待って、自然の風趣を楽しんだようすが描かれています。

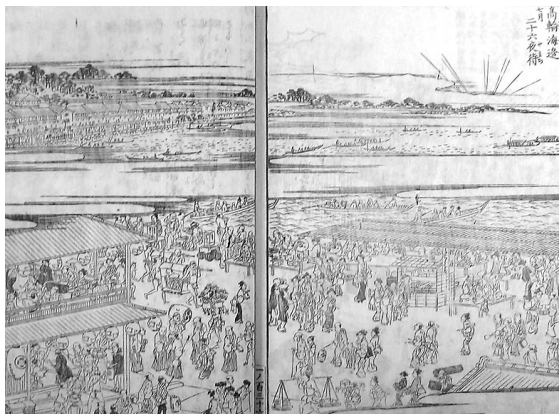


図4：『江戸名所図絵』高輪海辺七月二十六夜待

さて、江戸時代は環境共生社会・資源循環型社会とも言われています。当時の庶民にとっては普通のことで、我々現代人が見つめ直すと、そこから学べることは多いものです。今回の展示会では次の4つのキーワードで展示を構成します。それは、「季節の楽しみ」、「よむ・つくる楽しみ」、「みる・きく楽しみ」、「あそぶ楽しみ」の4部構成です。江戸当時の様々な楽しみ方を想像しつつ、現在の暮らしにも思いを巡らしてもらえよう、工夫をしていきたいと思っています。

また、この展示会は、本学創立100周年記念事業であると同時に、宮城県図書館創立125周年記念事業としても開催します。本館資料だけではなく、共催館である宮城県図書館が所蔵する資料も多数展示する予定です。さらに、宮城県の「次世代育成プロジェクト」とも連携したイベントなども企画していますので、どうぞご期待ください。

注1)「平成18年度企画展」

開催期間：平成18年11月3日(金)～14日(火)

開催場所：せんだいメディアテーク 5F  
ギャラリー 3300a

#### 参考文献

1. 竹内誠監修、「江戸庶民の娯楽」、学習研究社、2003
2. 西山松之助著、「江戸庶民の四季」、岩波書店、1993
3. 藤澤紫著、「鈴木春信絵本全集」、勉誠出版、2003
4. 仙台市歴史民俗資料館「足元からみる民俗(11)」、2003

## キャンパス間資料搬送サービスの試行をはじめました！

試行期間：2006 年 7 月 3 日(月) ～ 2006 年 12 月 22 日(金)

キャンパス間資料搬送サービスの参加図書館(室)間であれば、最寄りの図書館(室)を通じて資料を取り寄せ借りることができます。また、どの参加図書館(室)にも返却することができます。

申し込み方法や利用条件等は図書館ホームページでご確認ください。  
(情報サービス課)



## 第37回国立大学図書館協会東北地区協会総会の開催について

表記会議が、4月20日（木）本学が当番館となり、2号館4階会議室を会場として東北地区7大学から20名が参加して開催され、次の協議題について協議が行われた。

- 1) 法人化後2年間における大学図書館の動向及び今後の目標等について
  - 2) 東北地区国立大学図書館におけるメールによる文献複写物の送付について
  - 3) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業について
  - 4) 東北地区国立大学図書館協会会則の改正について
  - 5) 第53回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について
  - 6) 次期当番館について
- その結果、次のとおり決定した。

1. 第53回国立大学図書館協会総会に向けての準備事項等について

- 1) 東北地区協会から総会ワークショップへ提案するテーマについて

法人化後の図書館経営の諸問題について

大学教育と連携した図書館サービス改善の可能性について

- 2) 平成18年度地区選出の理事館候補館  
地区選出の理事館候補館として東北大学を選出した。

2. 次期当番館について

- ・弘前大学で行うことを確認した。

また、協議題全般について活発な意見交換を行った。



## 附属図書館商議会商議員名簿

平成18年4月1日現在

| 所 属                 | 氏 名     | 任 期                            |
|---------------------|---------|--------------------------------|
| 図 書 館 長             | 野 家 啓 一 | 職 指 定<br>( 17. 4. 1～18.11. 5 ) |
| 図 書 館 副 館 長         | 倉 本 義 夫 | 職 指 定<br>( 17.10. 1～19. 9.30 ) |
| 医 学 分 館 長           | 佐 藤 洋   | 職 指 定<br>( 15.12. 1～18.11.30 ) |
| 北 青 葉 山 分 館 長       | 高 木 泉   | 職 指 定<br>( 17.11. 1～19. 3.31 ) |
| 工 学 分 館 長           | 松 本 繁   | 職 指 定<br>( 17. 4. 1～19. 3.31 ) |
| 農 学 分 館 長           | 國 分 牧 衛 | 職 指 定<br>( 17. 4. 1～19. 3.31 ) |
| 情報シナジ-機構情報シナジ-センター長 | 川 添 良 幸 | 職 指 定<br>( 17. 4. 1～19. 3.31 ) |
| 総 長 主 席 補 佐         | 磯 谷 桂 介 | 職 指 定<br>( 16. 4. 1～ )         |
| 文 学 研 究 科 教 授       | 原 英 一   | 18. 4. 1～19. 3.31              |
| 教育学研究科教授            | 梶 山 雅 史 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 法 学 研 究 科 教 授       | 山 元 一   | 18. 4. 1～20. 3.31              |
| 経 済 学 研 究 科 教 授     | 猿 渡 啓 子 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 理 学 研 究 科 教 授       | 寺 前 紀 夫 | 17.11. 1～20. 3.31              |
| 医学系研究科教授            | 柳 澤 輝 行 | 18. 4. 1～20. 3.31              |
| 歯 学 研 究 科 教 授       | 奥 野 攻   | 13. 4. 1～19. 3.31              |
| 薬 学 研 究 科 教 授       | 永 沼 章   | 18. 4. 1～20. 3.31              |
| 工 学 研 究 科 教 授       | 桑 野 博 喜 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 農 学 研 究 科 教 授       | 池 上 正 人 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 国際文化研究科教授           | 北 川 誠 一 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 情報科学研究科教授           | 尾 畑 伸 明 | 16. 4. 1～19. 3.31              |
| 生命科学研究科教授           | 仲 村 春 和 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 環境科学研究科教授           | 松 木 浩 二 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 教育情報学研究部教授          | 村 木 英 治 | 14. 4. 1～20. 3.31              |
| 金属材料研究所教授           | 古 原 忠   | 18. 4. 1～19. 3.31              |
| 加 齢 医 学 研 究 所 教 授   | 佐 竹 正 延 | 14. 4. 1～19. 3.31              |
| 流体科学研究所教授           | 藤 代 一 成 | 18. 4. 1～20. 3.31              |
| 電気通信研究所教授           | 村 岡 裕 明 | 18. 4. 1～20. 3.31              |
| 多元物質科学研究所教授         | 大 塚 康 夫 | 17. 4. 1～19. 3.31              |
| 東北アジア研究センター教授       | 磯 部 彰   | 16. 4. 1～20. 3.31              |
| 高等教育開発推進センター教授      | 関 内 隆   | 8. 4. 1～19. 3.31               |

# 会 議

## 学 内

### 18. 4.25 平成18年度第1回附属図書館運営会議

#### ・協議事項

- 1) 平成18年度附属図書館自己点検・評価に伴う評価WGメンバー及び評価委員会委員について
- 2) 平成18年度総長裁量経費の要求事項の変更について

#### ・報告事項

- 1) 平成18年度商議員について
- 2) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業について
- 3) 第37回国立大学図書館協会東北地区協会総会の報告について
- 4) 国立大学法人等職員採用二次試験について
- 5) 図書館主催の新人研修について
- 6) 図書館主催のオリエンテーション等について
- 7) 平成18年度科学技術週間記念展示等について
- 8) 電子ジャーナルの過剰アクセスについて
- 9) 情報シナジーセンター学術情報研究部の組織変更について

### 18. 5.29 平成18年度第2回附属図書館運営会議

#### ・協議事項

- 1) 運営会議の当面の検討事項(案)について
- 2) 中期計画・年度計画(案)について
- 3) 各種委員会委員について
- 4) 新キャンパス移転に伴う図書館機能に関する協議について

#### ・報告事項

- 1) 「北京風俗図譜」の複製出版について
- 2) 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業

## への応募について

- 3) 「東北大学生のための情報探索の基礎知識」自然科学編(2006)の出版について

#### 4) その他

##### 諸会議等について

- ・国立大学図書館協会理事会にについて
- ・外国雑誌センター館会議について
- ・第1回自己点検評価WG委員会について
- ・目録システム地域講習会(図書コース, 雑誌コース)の開催について

##### その他

- ・遡及入力について

## 学 内

### 18. 6.30 平成18年度第3回附属図書館運営会議

#### ・協議事項

- 1) 青葉山新キャンパスにおける図書館構想について
- 2) 学術情報戦略会議について
- 3) 平成18年度附属図書館予算案について
- 4) 電子ジャーナル経費負担案等について
- 5) キャンパス間搬送サービスの試行について
- 6) カラーコピーの文献複写料金設定に伴う文献複写等内規の改正について
- 7) 電子ジャーナルアクセス停止措置への対応(案)について

#### ・報告事項

- 1) 国立大学図書館協会総会について
- 2) 平成18年度第1回, 2回学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会(合同会議)報告について
- 3) 平成19年度概算要求事項について
- 4) 平成18年度総長裁量経費の内示について

### 18. 6.30 平成18年度第1回附属図書館商議会議

・協議事項

- 1) 青葉山新キャンパスにおける図書館構想について
- 2) 学術情報戦略会議について
- 3) 平成18年度附属図書館予算案について
- 4) 電子ジャーナル経費負担案等について
- 5) キャンパス間搬送サービスの試行について
- 6) カラーコピーの文献複写料金設定に伴う文献複写等内規の改正について
- 7) 自己点検評価委員会の設置について

・報告事項

- 1) 各種委員会委員について
- 2) 附属図書館運営会議について

- 3) 平成18年度第1回, 2回学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会(合同会議)報告について
- 4) 中期計画・年度計画の平成17年度実施報告について
- 5) 国立大学図書館協会総会について
- 6) 平成18年度目録システム地域講習会について
- 7) 電子ジャーナルの不正使用について
- 8) 平成19年度概算要求事項について
- 9) 平成18年度総長裁量経費の内示について
- 10) 防犯カメラ画像の提供方法について
- 11) 各分館からの報告について



～こらむ～ つ・ぶ・や・き (1)

ある日高名な評論家A氏が図書館を訪ねてきた。みるからに神経質そうな方ゆえ、カウンターでは緊張し通しの対応をした後、客人は電話を使いたいと申された。

携帯電話などはなく、内線以外は交換を通さねばならない頃である。

多忙なA氏はカウンターの電話であちこちと話をしてしたが、急に怒り出した。

不手際でもあったかと、恐れおののく周囲の眼が一斉にカウンターに向けられた。

A氏が、交換手の話し方が悪いと大声でわめき散らしながらお帰りになった後、件の交換嬢から電話が入る。「一体どういう方なのでしょう。あんなにお怒りになって……」何故怒鳴られたのかもわからず困惑の態。A氏はよほど虫の居所が悪かったのだろう。

それにしても「実るほど頭を垂れる稲穂かな」どころか、「実っても中味の軽い」有名人ではあったことよ。

(徒然子) 文責：工分及川

## 人 事 異 動

平成18年 6 月30日現在

| 発令年月日     | 新 職                  | 氏 名     | 旧 職                  | 備 考 |
|-----------|----------------------|---------|----------------------|-----|
| 18. 3. 31 |                      | 後 藤 敏 行 | 図書一般職員（情報サービス課閲覧第一係） | 辞 職 |
| 18. 4. 1  | 弘前大学学術情報部長           | 諏訪田 義 美 | 附属図書館総務課長            | 昇 任 |
| "         | 附属図書館総務課長            | 菅 原 英 一 | 筑波大学附属図書館情報管理課長      | 採 用 |
| "         | " 情報管理課長             | 臼 井 克 巳 | 名古屋大学附属図書館情報サービス課長   | "   |
| "         | 工学部・工学研究科総務課長        | 左 藤 克 義 | 医学分館事務長              | 配置換 |
| "         | 医学分館事務長              | 熊 谷 功   | 情報部情報推進課課長補佐         | 昇 任 |
| "         | 情報部情報基盤課会計係長         | 原 田 正 巳 | 総務課会計係長              | 配置換 |
| "         | 総務課会計係長              | 鈴木 岩 夫  | 病院経理課経理係長            | "   |
| "         | 北青葉山分館管理係長           | 阿 部 佳 市 | 情報管理課受入係長            | 配置換 |
| "         | 情報管理課受入係長            | 嶺 岸 文 男 | 北青葉山分館管理係長           | "   |
| "         | 仙台電波工業高等専門学校総務課図書係長  | 大 原 正 一 | 情報サービス課参考調査係長        | 出 向 |
| "         | 情報サービス課参考調査係長        | 對 馬 庸 二 | 情報サービス課参相互利用係長       | 配置換 |
| "         | 情報サービス課相互利用係長        | 芳 賀 博   | 仙台電波工業高等専門学校総務課図書係長  | 採 用 |
| "         | 文学部・文学研究科庶務係主任       | 伊 藤 亜紀子 | 総務課庶務係主任             | 配置換 |
| "         | 事務一般職員（総務課庶務係）       | 高 橋 雄 一 | 病院総務課庶務係             | "   |
| "         | 図書一般職員（情報サービス課参考調査係） | 渡 邊 愛 子 | 図書一般職員（農学分館図書係）      | "   |
| "         | " （情報サービス課閲覧第一係）     | 代 田 有 紗 | " （一関工業高等専門学校総務課図書係） | 採 用 |
| "         | " （宮城工業高等専門学校庶務課図書係） | 藤 本 菜穂子 | " （情報サービス課相互利用係）     | 出 向 |
| "         | " （情報サービス課相互利用係）     | 福 井 ひとみ | " （医学分館運用係）          | 配置換 |
| "         | " （医学分館運用係）          | 吉 川 文 子 | " （宮城工業高等専門学校庶務課図書係） | 採 用 |
| "         | " （工学分館管理係）          | 吉 植 庄 栄 | " （情報サービス課参考調査係）     | 配置換 |
| "         | " （宮城教育大学附属図書館目録情報係） | 永 澤 恵 美 | " （工学分館整理・運用係）       | 出 向 |
| "         | " （工学分館整理・運用係）       | 三 浦 純 子 | " （宮城教育大学附属図書館目録情報係） | 採 用 |
| "         | " （農学分館図書係）          | 渡 部 知 美 |                      | "   |
| "         | 事務補佐員（情報サービス課相互利用係）  | 及 川 優 子 |                      | 採 用 |
| "         | " （電気通信研究所総務課図書係）    | 早 坂 幸 子 |                      | "   |

## 編 集 後 記

○館報「木這子」は、本号で発行30年目を迎えました。手書き原稿に悩まされ、文字数チェックや校正に振り回されることなく、原稿がパソコン上で編集できるようになるとは、パソコンのない頃を考えますと隔世の感があります。

○目的、内容など編集方針が発行の都度話題になります。親しまれるものにしたい、と編集後記に幾度も書かれながら、相変わらず硬く、

アカデミックな印象は否めません。積み上げると高さ10.5cmになる30年間の歴史を眺めつつ、何とか打破したいと思うのですが……

○「木這子」が登場した時、その図柄が「きぼこ」ならぬ「きのこ」にみえたものです。ちょうど「しめじ」のように「木這子」も成長し、味わい深いものとなってゆければと思います。



平成18年度広報委員会委員

委員長 菅原 英一

\*高橋 信野, 小野寺金巳

\*菊地 良直, \*代田 有紗

横山 美佳, 小飯塚 猛, \*及川恵美子

\*小幡 明子, 白石 光雄

注) \*は木這子編集委員

---

東北大学附属図書館報「木這子」 第31巻第1号(通巻114号)発行日 平成18年6月30日

発行人 北村 明久 広報委員会委員長 菅原 英一

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 電話 022-795-5911, FAX 022-795-5909

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>